

# 愛知県豊川市農業委員会（新規就農支援制度と市農地バンクの取り組み）

【農業委員会の体制】（令和2年7月20日任期開始 新制度移行後2期目）  
農業委員18名、農地利用最適化推進委員15名、事務局職員6名

## 1 地区の特徴・状況、課題

○豊川市は、大葉、トマト、花きなど施設園芸が盛んな地域であるが、担い手の高齢化や後継者不足により、優良農地をどう引き継ぐかが課題となっている。このため、新規就農者の確保と高齢化により耕作できなくなった農地をどのように結び付けていくか課題となっている。

## 2 課題解決に向けた活動（農地利用の最適化の推進の取組と工夫）

○農業を新たに始め易くするため、200㎡以上1000㎡未満から農業を始められる新規農業参入希望者、1000㎡以上3000㎡未満で始められる新規就農希望者を制度化し、農地法の下限面積(3000㎡)未満でも利用権設定できるようにした。また、農業委員会の意向調査で貸し付け意向の遊休農地等を市農地バンクに積極的に登録させて、出し手と受け手をマッチングしている。



## 3 活動の成果

○地元農業委員、JAによる営農指導などの支援もあり、今までに新規農業参入希望者は延べ62人、新規就農希望者は延べ57人に上っている。特に、令和2年度はコロナ禍の影響で新規農業参入希望者が12名と今までの最多となった。また、市農地バンクでは、令和2年度末で農地2000筆、面積約114haが登録され、市内に制度として定着しており、令和2年度の貸し付け実績は、農地50筆、面積で約4.1haとなっている。